



花崎北小学校だより

学校教育目標 「かしこく やさしく たくましく」

令和7年度
7月号
児童数 227名

「梅雨の紫陽花」

花崎北小学校長 刑部 香織

梅雨に入り、体育館北側の紫陽花（あじさい）がきれいに咲いていました。よく見ると2つの咲き方があります。

紫陽花は、ガクアジサイを母体とする日本原産の品種で、奈良時代にはすでに存在していたそうです。額縁のように周囲にだけ花（実際はガク、中心部が花）が咲きます。あじさいの語源には諸説あるそうですが、藍色が集まったものを意味する「集真藍（あづさあい／あづさい）」がなまったという説が有力とされています。その後、西洋に渡り品種改良が重ねられてできたものが西洋アジサイで、よく見かける手まり状に咲いている紫陽花です。紫陽花は毎年のように新品种が登場し、その数は数千品種に及びます。校長室にある紫陽花は品種改良されたもので、マジカルという名前がついています。同じ紫陽花でも、それぞれに良さがあり、「みんなちがってみんないい」のです。

紫陽花は、花の色が変化することも知られています。土が酸性だと青系に、アルカリ性だと赤系になります。古くは「万葉集」において詠まれています。平安時代の文学作品にはほとんど登場しません。これは、紫陽花の花色が変わることが心の移ろいや節操のなさ結びつけられ、好ましくないとみなされていたと考えられています。一方、西洋では色が変わる特性が珍重され、品種改良が積極的に進められたそうです。同じ現象でも、考え方によって見方が変わります。

花北小には227名の児童がいます。一人一人に良さがあり、「みんなちがってみんないい」のです。見た目などで、からかったりからかわれたりという話を耳にすると悲しくなります。からかいはいじめにつながります。考え方も色々あっていいのです。ただし、自分の考えだけを押し通そうとするのは、学校生活を送る上でプラスにはなりません。色々な考えを聞いて、よりよい考え方、方法などを仲間と見つけ出していきましょう。

紫陽花のように、それぞれの個性を発揮して鮮やかに咲き誇る花北っ子になってほしいと願っています。



ガクアジサイ



西洋アジサイ



校長室の紫陽花